

開 会 挨拶

日本政策金融公庫総裁 田中 一穂

本日は大変お忙しいなか、多くの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございます。第10回記念日本公庫シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

私ども日本政策金融公庫は、今年の10月1日で統合10周年を迎えました。総合研究所が、学術的な研究成果を多くの皆さまにわかりやすい形で発信することを目的に毎年開催してまいりましたこのシンポジウムも、10回目の節目を迎えます。昨年は「中小企業における外国人雇用の現状と課題」をテーマに取り上げましたが、今年は「新規開業企業の成長メカニズム」と題し、シンクタンク・ソフィアバンク代表の藤沢久美様や、創業後に大きく成長し、当公庫が統合してから10年の間に株式上場を果たした経営者の方々をお招きし、本日の開催の運びとなりました。

当公庫は中小企業に対し、年間約30万件の融資を行っています。そのうち500万円以下の融資が5割、3,000万円以下の融資が93%を占めており、小さな企業を含めた中小企業の資金調達をお手伝いしております。さらに30万件のうち、創業前、もしくは創業後1年以内の企業への融資を行う創業融資の件数が2万8,000件あります。創業企業への支援は、当公庫が非常に力を入れている分野です。

企業は創業後に販路の開拓や人材の確保など、さまざまな課題に直面しながら事業を進めていきます。壁にぶつかって業績が伸び悩むケースもあれば、課題を克服して短期間で業容を拡大させる企業もあります。創業企業は新たなビジネスや雇用の創出を通じ、経済の活力を生み出しているわけです。

が、とりわけ急成長を遂げる企業が社会にもたらすインパクトは非常に大きなものがあると思います。

こうした背景や意味合いを踏まえ、今回のシンポジウムは「新規開業企業の成長メカニズム」をテーマに取り上げました。10年前のリーマンショックを境にわが国の経済環境が大きく変化するなかで、急速な成長を遂げた企業の姿を追い、企業は開業してからどのような過程を経て成長軌道に乗るのか、成長企業にはどういう特徴があるのかについて、深く掘り下げた議論ができればと考えております。

なお、私どもの研究所に対しては、中小企業専門のシンクタンクとして、常に高い研究水準を追求するよう要請しています。そのためには、日ごろの研究成果を広く発信し、外部の方々から評価していただくことが何よりも重要です。このシンポジウムはその絶好の機会であると考えております。ご参加いただきました皆さまから忌憚のないご意見とご評価をいただくとともに、本日のシンポジウムがご来場の皆さまにも意義のある内容のものとなることを願ひまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

